

奈良県北葛城郡広陵町

新木山古墳

第3次範囲確認調査報告

平成 24 (2012) 年 3 月

広陵町教育委員会

奈良県北葛城郡広陵町

新木山古墳

第3次範囲確認調査報告

平成24（2012）年3月

広陵町教育委員会

例　言

1. 本書は奈良県北葛城郡広陵町大字三吉に所在する新木山古墳で実施した第3次範囲確認調査の報告書である。
2. 調査は、広陵町教育委員会が平成22（2010）年度に国庫補助金・県費補助金を受けて実施した。
3. 現地調査期間、面積は次のとおりである。
半成22年10月20日～平成22年11月19日、55.2m²
4. 調査組織（当時）は次のとおりある。

調査主体	広陵町教育委員会事務局
調査組織	広陵町教育委員会事務局 教育長 安田義典、 事務局長 植村和山、教育総務課長 奥西治、 文化財保存センター所長 河上邦彦、同課所長 井上義光
調査担当	広陵町教育委員会事務局 文化財保存センター 文化財係 名倉恵
調査作業員	竹村勝、堀川真弘、井上孝司、水嶋初男
5. 重機作業等は安西工業株式会社に委託した。
航空写真撮影、基準点・水準測量は株式会社南紀航測センターに委託した。
6. 調査にあたり下記の諸機関、方々のご指導・ご協力をいただいた。記して感謝します。
(順不同 敬称略)
奈良県教育委員会事務局文化財保存課、奈良県文化財保護指導委員 平井儀一、
宮内庁書陵部畝傍陵墓監区事務所内閣府事務官管理係長 野上修也、宮内庁書陵部畝傍陵
墓監区傍丘部内閣府事務官陵墓守長 西村寛治、宮内庁書陵部陵墓課陵墓調査室主任研究
官 清喜裕二、宮内庁書陵部陵墓課陵墓調査室員 横田真吾、
井岡詮富、井岡繁治、生嶋新治、生嶋理恵子、生嶋敬三、上田忠正、中川勇、吐巾弘次、
堀木順嗣、吉田隼二
7. 図1は国土地理院発行の1：25,000地形図「大和郡山」（平成19年3月1日発行1刷）・
「大和高田」（平成19年5月1日発行1刷）・「信貴山」（平成19年5月1日発行1刷）・
「桜井」（平成19年8月1日発行1刷）をもとに作成した。
図4・11は広陵町発行の1：2,500地形図「広陵町全図4」（平成15年2月修正版）、帝室林
野局作成の「三吉陵墓参考地之図」をもとに作成した。
8. 本書で使用した座標は世界測地系第VI座標系を用い、方位は座標北を示す。標高は東京湾平
均海拔（T.P.）を基準にしている。
9. 上層や埴輪・土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研
究所色票監修『新版標準上色帖』1994年版に拠った。
10. 出土遺物をはじめ調査記録の一切は広陵町教育委員会において保管している。
11. 本書の執筆・編集は名倉が行った。

本文目次

1. 調査の契機	1
2. 位置と環境	
(1) 周辺の地理的・歴史的環境	1
(2) 既往の調査	3
3. 調査の成果	
(1) 第1調査区	5
(2) 第2調査区	7
(3) 第3調査区	7
4. 出上遺物	9
5. まとめ	13

挿図目次

図1 調査地位置図 (1/40000)	
図2 明治15年出土遺物実測図	
図3 新木山古墳墓見取図	
図4 調査区位置図 (1/2000)	
図5 第1調査区遺構平面図・南壁土層断面図 (1/50)	
図6 第2調査区遺構平面図・南東壁土層断面図 (1/50)	
図7 第3調査区遺構平面図・東壁土層断面図 (1/50)	
図8 第1調査区出土遺物実測図 (1/4)	
図9 第2調査区出土遺物実測図 (1/4)	
図10 第3調査区出土遺物実測図 (1/4)	
図11 各調査区標高図 (1/1500)	

表目次

表1 出土遺物観察表	
------------	--

写真図版目次

- 図版 1 航空写真（南西から 右が新木山古墳 左は三吉石塚古墳）
航空写真（上が北 右が新木山古墳 左は三吉石塚古墳）
- 図版 2 第1調査区全景（西から 奥は宮内庁第11トレンチ）
第2調査区全景（南西から 奥は宮内庁第10トレンチ）
第3調査区全景（南から 奥は宮内庁第9トレンチ）
- 図版 3 第1調査区全景（上が北 右は宮内庁第11トレンチ）
第2調査区全景（上が北西 右は宮内庁第10トレンチ）
第3調査区全景（右が北 右は宮内庁第9トレンチ）
- 図版 4 第1調査区全景（西から） 第1調査区全景（東から）
第1調査区全景（北東から）
- 図版 5 第1調査区遺物検出状況（北から）
第1調査区南東拡張部（北から 左は宮内庁第11トレンチ）
第1調査区南東拡張部（北から）
- 図版 6 第2調査区全景（南西から） 第2調査区全景（北東から）
第2調査区全景（西から）
- 図版 7 第2調査区東拡張部（西から 上は宮内庁第10トレンチ）
第2調査区東拡張部（北西から 左は宮内庁第10トレンチ）
第2調査区東拡張部（北西から 左は宮内庁第10トレンチ）
- 図版 8 第3調査区全景（南から） 第3調査区全景（北から）
第3調査区全景（南西から）
- 図版 9 第3調査区石材検出状況（西から）
第3調査区北東拡張部（南西から 上は宮内庁第9トレンチ）
第3調査区北東拡張部（西から 左は宮内庁第9トレンチ）
- 図版10 出土遺物
- 図版11 出土遺物

1. 調査の契機

新本山古墳は、奈良盆地の西辺に位置する馬見丘陵に築造された大型前方後円墳である。馬見丘陵に所在する馬見古墳群の中央群に含まれて北方の巣山古墳と共に盟主的存在となっているが、密集して造られた巣山古墳・ナガレ山古墳・乙女山古墳等からはやや離れて立地し、周辺には三吉石塚古墳の他は小規模な円墳が点在するのみである。

墳丘部分は宮内庁により二吉陵墓参考地に治定されているが、周濠・外堤部分は民有地である。周濠は、北側はため池、西～南側は田畠、東側は公園で築造時の形状を残すが、南東部は宅地となっている。外堤は、西側は町道、南側西半は町道・畑で築造時の形状を残すが、南側東半・東側は削平されて宅地開発、町道新設工事などの開発が進行している。

今回の調査は、これら各種開発から古墳を保護し、史跡指定の基礎資料を得るための範囲確認を目的として実施した。

2. 位置と環境

(1) 周辺の地理的・歴史的環境（図1）

広陵町は、奈良盆地の一角を占める東側の平野部と、西側の丘陵部に分かれる¹⁾。東側の平野部は、町域をおおよそ南北に流れる高田川、葛城川、曾我川によって形成された沖積平野で、南から北に緩やかに傾斜している。かつては何度も流路の変化、氾濫を繰り返して曲流していたが、現在は河川改修によりほぼ平行して北流している。

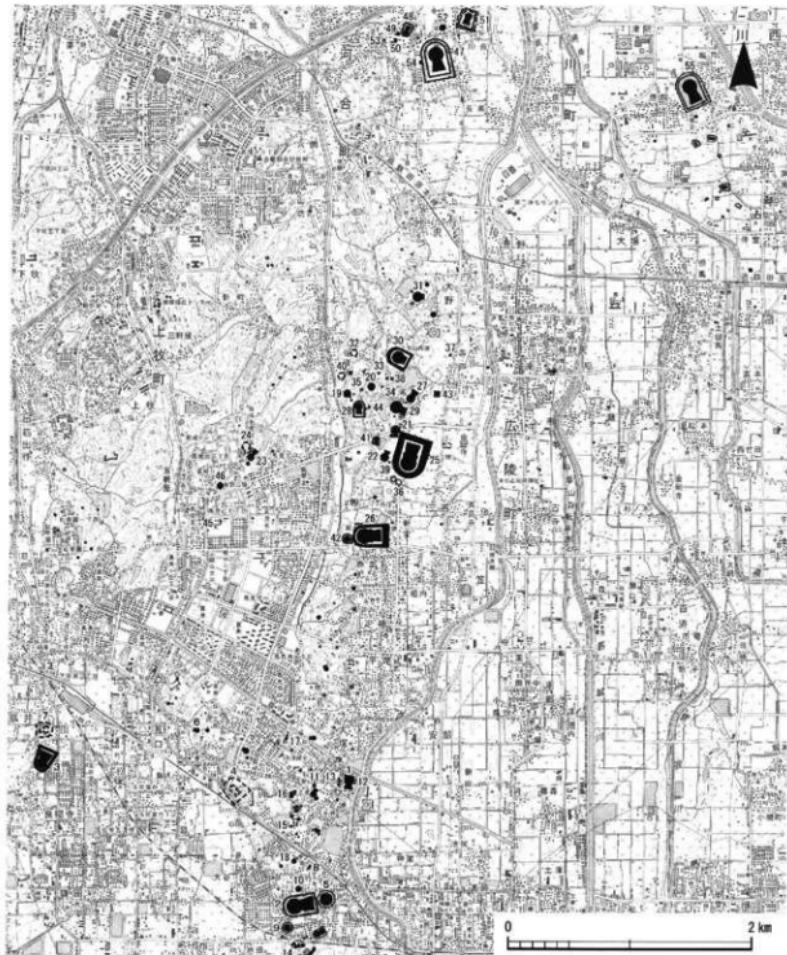
西側の丘陵部は南北約7km、東西約3kmに広がる馬見丘陵の一部で、標高60～80mを測る。馬見丘陵は鮮新・更新世に形成された大阪層群で、湖沼成層・河成層の礫・砂・シルト及び粘土と海成層の海成粘土層から構成される。東を高田川、西を葛下川、北を大和川に限られた丘陵は、内部を北流する佐味田川、滝川の浸食を受けて西・中央・東部に三分され、更に小谷部が樹枝状に形成している。

古墳時代になると、この馬見丘陵の主に東部に大型の前方後円墳を含む多くの古墳からなる馬見古墳群が形成される。馬見古墳群は一般に、北・中央・南の三群に分けて理解される²⁾。

南群は丘陵南部に立地する。前期中葉に新山古墳（前方後方墳 墳丘長約137m）が馬見古墳群で最初に築造され³⁾、以後、前期末～中期初頭の築山古墳（前方後円墳 墳丘長約210m）、中期後半～後期初頭の狐井城山古墳（前方後円墳 墳丘長約140m）と断続的に大型前方後円墳が築造される。また、大型前方後円墳の系譜が中央群に移動した中期前半には別所石塚古墳（前方後円墳 墳丘長90～100m程）、コンビラ山古墳（円墳 径約95m）の100m級の古墳が造られる。並行して、土山古墳（墳丘長65m程 前期後半）⁴⁾・狐井稻荷山古墳（墳丘長70m程 中期後半）⁵⁾・インキ山古墳（墳丘長50m前後 後期後半）⁶⁾等の小型前方後円墳、茶臼山古墳（径47m 中期前半）⁷⁾・かん山古墳（径約50m 中期前半）⁸⁾等の円墳が継続的に造られる。

その他、南群では小型の古墳で構成される古墳群が、4世紀後半から7世紀まで造営される。いずれも墳丘長40～80mの前方後円墳・前方後方墳を中心に20～30mの円墳・方墳数基から十数基で構成される（モエサシ古墳群、新東山古墳群、新山西古墳群、池田古墳群、黒石古墳群、エガミ田古墳群、安部山古墳群、大谷古墳群など）。

中央群は南群からやや遅れて、丘陵東部で前期後半に円墳のナガレ山北3号墳（径約60m）か



1 新山古墳	2 塚山古墳	3 狐井城山古墳	4 別所石塚古墳	5 コンビラ山古墳
6 土山古墳	7 狐井福荷山古墳	8 インキ山古墳	9 茶臼山古墳	10 かん山古墳
11 モエサシ古墳群	12 新山東古墳群	13 新山西古墳群	14 池田古墳群	15 黒石古墳群
16 エガミ田古墳群	17 安部山古墳群	18 大谷古墳群		
19 ナガレ山北 3 号墳	20 別所下古墳	21 佐味田狐塚古墳	22 三吉 2 号墳	23 佐味田宝塚古墳
24 貝吹山古墳	25 墓山古墳	26 新木山古墳	27 一本松古墳	28 ナガレ山古墳
29 倉塚古墳	30 乙女山古墳	31 池上古墳	32 北端古墳	33 カタビ 3 号墳
34 別所下 2 号墳	35 ナガレ山北 5 号墳	36 謙岐神社 1 号墳	37 シドマ塚古墳	38 カタビ 1 号墳
39 三吉 3 号墳	40 佐味田妨塚古墳	41 ダタオシ古墳	42 三吉石塚古墳	43 文代山古墳
44 ナガレ山東 2 号墳	45 石ヶ谷古墳	46 牧野古墳		
47 川合大塚山古墳	48 中良塚古墳	49 高山 2 号墳	50 高山 3 号墳	51 川合城山古墳
52 丸山古墳	53 高山 4 号墳	54 九僧古墳	55 鳥の山古墳	

図 1 調査地位置図 (1 / 40000)

ら築造が開始される。続いて、円墳の別所下古墳（径約58～61m 前期後半）や、帆立貝式古墳の佐味田狐塚古墳（墳丘長約78m 前期末）⁴⁸・三占2号墳（墳丘長約93m 前期末～中期初頭）が造られる。谷を挟んだ丘陵中央部では前期後半～末頃に前方後円墳の佐味田宝塚古墳（墳丘長112m）・貝吹山古墳（墳丘長100m程）⁴⁹が造られる。

中期初頭には大型前方後円墳である巣山古墳（墳丘長約220m）が築造され⁵⁰、続いて新木山古墳（墳丘長約200m）が造られる。平行して前方後円墳の一本松古墳（墳丘長約130m 前期末～中期初頭）⁵¹・ナガレ山古墳（墳丘長105m 中期初頭）・倉塚古墳（墳丘長約180m 中期前半）⁵²、帆立貝式古墳の乙女山古墳（墳丘長130m 中期前半）・池上古墳（墳丘長92m 中期前葉）が造られる。円墳は北端古墳（径約60m 中期前葉～中葉）⁵³が築造される他、周辺に小型円墳のカタビ3号墳（径約24m 中期前半）⁵⁴・別所下2号墳（径15～16.5m 中期前半）⁵⁵・ナガレ山北5号墳（径10m 中期前半）⁵⁶・讚岐神社1号墳（径28～32m 中期前半）⁵⁷・シドマ塚古墳（径20m 中期中葉）⁵⁸、小型方墳のカタビ1号墳（21×23m 中期中葉）⁵⁹・三占3号墳（一边約12m 中期）⁶⁰などが造られる。大型前方後円墳の系譜が北群に移動した中期後半以降、円墳の佐味田坊塚古墳（径約60m 中期末）はそれまでと同規模を維持するが、前方後円墳のダダオシ古墳（墳丘長47～50m 後期）⁶¹、帆立貝式古墳の三吉石塚古墳（墳丘長45m 中期後半）⁶²は円墳よりも小さくなる。また、前方後円墳・帆立貝式古墳とほぼ同規模の方墳の文代山古墳（一边約48m 中期後半）⁶³が登場する。

後期にはナガレ山東2号墳（円墳 径22m）⁶⁴、右ヶ谷古墳（方墳 13×18m）⁶⁵などの小型古墳が散在するのみであったが、後期末に牧野古墳（円墳 径60m）が築造される。

北群は丘陵北東麓に立地する。中央群の大型前方後円墳の系譜を引き継ぐように、中期後半に川合大塚山古墳（墳丘長約197m）が築造される。ほぼ並行して中良塚古墳（前方後円墳 墳丘長約88m）、高山2号墳（円墳 径約35m）⁶⁶、高山3号墳（円墳 径約30m）⁶⁷が造られ、中期末～後期初頭の川合城山古墳（前方後円墳 墳丘長約109m）の築造で造墓活動を終了する。北群では他に、丸山古墳（円墳 径約48m）、高山4号墳（円墳 径30m程）、九僧塚古墳（方墳 一边約30m）などの古墳が造られ、周辺地域での調査によりさらに複数の古墳が存在したと考えられている⁶⁸。

（2）既往の調査

新木山古墳は、南北方向に伸びる丘陵の主幹尾根から東に派生する小支丘を切断して築造される。墳丘長約200m、後円部径約117m、同高約19m、前方部幅約118m、同高約17mを測り、西から東に向かって緩やかに傾斜する⁶⁹。主軸はN92°Wで、両くびれ部には方形の低い造り出しを取り付く。段築は明瞭ではないが標高56m付近と60m付近にテラス面が想定され、二段築成と考えられた。墳丘の裾には約30～50cm程度の石が散在しており、墳丘斜面には葺石があると考えられていた。墳丘の周間に盾形の周濠を有し、外堤が巡る。北側の周濠を利用した溜池の形状から二重周濠の存在も想定されていた。

明治15（1882）年に地元住民により石器・勾玉・管玉などが発見され、明治18（1885）年に未定御陵墓として陵墓兆域に治定された⁷⁰。この時出土したとされる勾玉・管玉が宮内庁に収蔵されている（図2）⁷¹。

明治26(1893)年には奈良県属の野瀬龍潛等により奈良県内の古墳墓が調査され、『大和国古墳墓取調書』²²³が作成された。この中の新木山古墳墓見取図は、墳丘北東～北側に池、西側に烟、南～南東側に田が描かれ、現在とほぼ同じ様相を示している。(図3)

発掘調査は、これまでに墳丘周辺部で2回実施している(図4)。第1次調査は古墳周辺の測量と南側周濠・外堤の範囲確認を目的として昭和62(1987)年度に実施された¹³⁴⁾。この調査で、周濠は現状で前方部中央の幅22m、後円部の幅18~22mを測り、一重濠であることが判明した。また、周濠内で中世以前の堆積層は検出されず、中世頃に濠底の地山まで削平されていることが確認された。外堤は墳丘南側で幅約22mを測る。後円部南西側では若干削平されたと考えられる周濠底(標高約53.1m)より50cm程高い外堤基礎を地山で形成し、この上に盛土を1.7m以上行っている。後円部南側では周濠底(標高約52.5m)より1.5m程高い外堤基礎を地山で形成し、この上に盛土を1m程行っている。築造時期は、出土した円筒埴輪から古墳時代中期前半と考えられている。

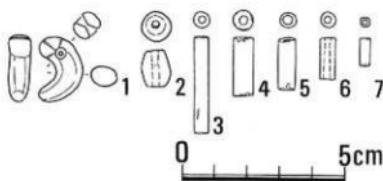


図2 明治15年出土遺物実測図（註32より）



図3 新木山古墳墓見取図（註33より）

第2次調査は北側外堤の範囲確認を目的として平成2（1990）年度に実施された²³³⁾。北側外堤は山側を平坦に切り通して造られ、盛土は行われず、外堤外端に溝が掘られていた。円筒埴輪片が少量出土することから外堤にも疎らに円筒埴輪を立てていたと考えられている。外堤上面は、平安時代中期以降、周濠の灌漑用溜池としての利用を図り、貯水量を増加させるために数回掘り下げられた濠底の排土が厚く堆積していることが確認された。

また、新木山古墳の西側外堤上にある三吉中近世墓群の発掘調査では、外堤の外端を示す溝が検出された。西側外堤は外端溝～現状の外堤内側基底部で幅約18mを測る。外堤上面は標高57m前後で、墳丘1段目テラスより高い位置にある。

その他、古墳南東部で各種開発に伴う試掘・立会調査を行っているが、顕著な遺構・遺物は検出していない。

3. 調査の成果

(1) 第1調査区（図5）

後円部の西側で墳丘主軸の延長線上に設定した、南北2m・東西10mの調査区である。南東角に民有地と陵墓参考地の境界まで幅0.6m・長さ0.8mの拡張部を設けた。調査区東端から西に90cm前後の位置で溝1、南東拡張部で溝2を検出した。

基本層序は、耕土の下層に灰黄褐色シルトが堆積し、現地表下40cm弱で明黄褐色粘質土・にぶい黄橙色粘質土、黄褐色粘質土、灰黄褐色粘質土の遺物包含層に達する。この包含層は埴輪小片や小石材の他、土師器・瓦器・瓦質土器などの中世遺物を含む。これらの下層、現地表下60cm前後で明黄褐色粘質土・黄褐色粘質土・明黄褐色砂質土等の地山面に達する。地山面は、調査区西端で標高約53.2m、東側の溝1西側で約53.3mを測り、ほぼ平坦面をなす。溝1付近から東側へは緩やかに高くなり、溝2西側で53.6m弱を測る。この地山緩斜面が墳丘裾の可能性もあるが、

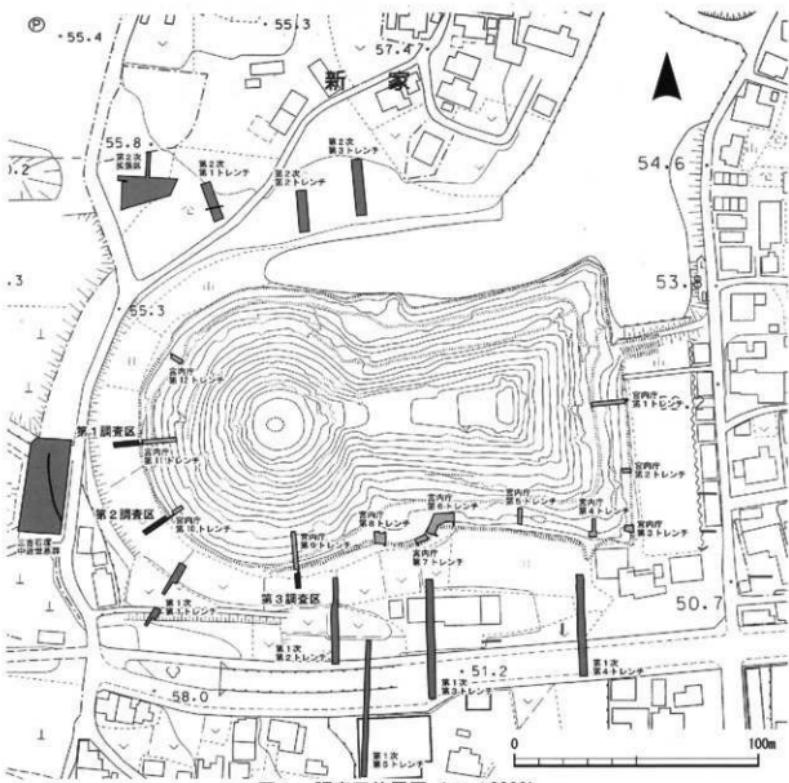


図4 調査区位置図 (1/2000)

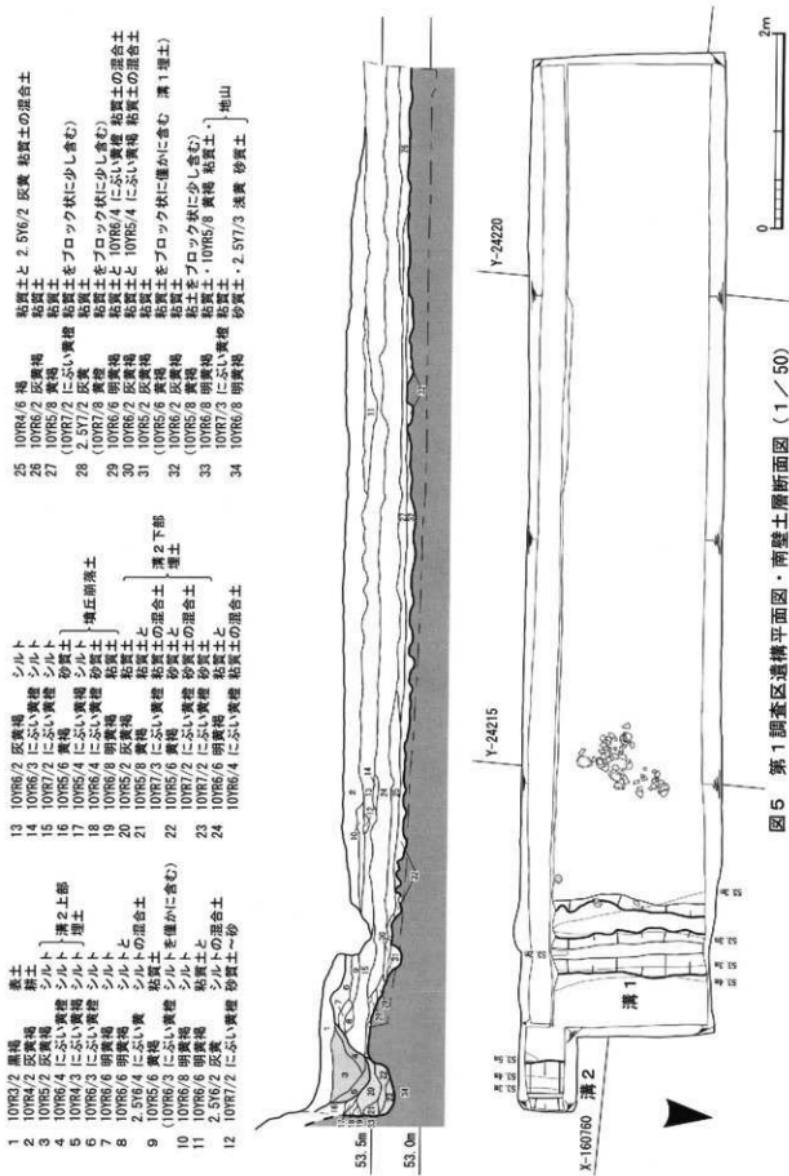


図5 第1調査区遺構平面図・南壁土層断面図（1／50）

葺石・基底石などが全くないため判然としない。地山平坦面も直上に中世遺物包含層が堆積するため、本来の周濠底の高さは不明である。

溝1

調査区東端から90cm前後西側で検出した南北方向の溝である。墳丘側地山緩斜面の傾斜変換点に位置する。幅30~40cm・深さ20cm弱を測り、灰黄褐色粘質土が堆積する。埴輪片と共に土師器・瓦器等の中世遺物を検出した。耕作に伴う溝と考えられる。

溝2

南東拡張部で検出した南北方向の溝である。下部溝は民有地と陵墓参考地の境界内側、墳丘部分から開削される。幅60cm以上・深さ30cm以上を測り、灰黄褐色粘質土・黄褐色粘質土・にぶい黄橙色粘質土・黄褐色砂質土・にぶい黄橙色砂質土・にぶい黄橙色砂質土が堆積する。埋没後、耕作地（周濠部分）を若干地上げした後に位置を外側にずらして上部溝が再開削される。上部溝は幅約80cm・深さ40cm弱を測り、灰黄褐色シルト・にぶい黄橙色シルト・にぶい黄褐色シルトが堆積する。上部溝が埋没後、更に外側にずらして現状の排水溝が開削されている。後円部南側から北側の溜池に排水するための溝と考えられる。

(2) 第2調査区（図6）

後円部の南西側に設定した調査区である。幅2m・長さ11mで設定し、東角を陵墓参考地との境界まで幅0.5m・長さ0.75mで拡張した。調査区南西部で溝3、東拡張部で溝4を検出した。

基本層序は、耕上以下、明黄褐色シルト・にぶい黄橙色粘質土・黄褐色粘質土と堆積し、現地表下40~50cm程度で褐灰色粘質土・灰白色粘土上の遺物包含層に達する。包含層は埴輪小片・小石材の他、土師器・瓦器・瓦質上器等の中世遺物を包含する。これらの下層で明黄褐色粘土・浅黄色粘土・黄橙色粘土の地山面に達する。地山面はほぼ平坦で標高約53.2mを測る。周濠の底部であるが直上に中世遺物包含層が堆積しているため、築造時の周濠底の高さは不明である。調査区北東端付近で緩やかに傾斜し、東拡張部の溝4南西側で標高53.5m弱を測る。葺石・基底石等は検出しなかった。

溝3

調査区南西部で検出した北西~南東方向の溝である。埋土は灰黄褐色粘質土で土師器片・瓦器片が出土した。耕作に伴う溝と考えられる。

溝4

東拡張部で検出した溝である。下部溝は民有地と陵墓参考地の境界付近から開削され、幅70cm以上・深さ約40cmを測る。灰黄褐色砂質土・灰黄色粘質土が堆積した後、耕作地（周濠部分）を地上げし、位置を若干外側にずらして上部溝が再び掘削される。溝2の延長と考えられる。

(3) 第3調査区（図7）

後円部の南側で墳丘主軸と直交する部分に設定した、東西2m・南北6mの調査区である。北東角に幅0.8m・長さ0.5mの拡張部を設けた。北東拡張部で溝5を検出した。

基本層序は、黒褐色耕土・にぶい黄橙色シルト・灰黄褐色粘土が堆積し、現地表下30~50cmでにぶい黄橙色粘土・褐灰色粘土上の遺物包含層に達する。包含層は埴輪小片・小石材の他、中世遺

1	10R6/3 脳膜 表土	
2	10R4/3 にぶい黄褐色 粘土	
3	10R6/2 明黄色 砂質土 (溝4上部埋土)	
4	10R5/2 反覆層 シルト	
5	10R6/4 にぶい黄褐色 シルト	
6	10R6/6 明黄色 シルト	
7	10R6/4 にぶい黄褐色 粘質土 (砂を少し含む)	
8	10R6/6 明黄色 粘質土 (砂を少し含む)	
9	10R5/3 にぶい黄褐色 シルト	
10	10R6/4 にぶい黄褐色 粘質土	
11	10R6/8 明黄色 粘質土	
12	10R5/2 反覆層 粘土	砂質土] 溝4 下部埋土
13	2.516/2 反覆 粘土	粘質土] 溝4 下部埋土
14	10R6/2 反覆層 粘土	砂質土] 溝4 下部埋土
15	10R6/4 にぶい黄褐色 シルト	砂質土と 粘質土の混合土
16	10R5/6 黄褐色 シルト	粘質土をブロック状に含む)
17	10R5/4 にぶい黄褐色 シルト	粘質土をブロック状に含む)
18	10R1/6 反覆層 (2.516/3 にぶい黄褐色 シルト)	砂質土] 溝3 埋土
19	2.516/2 反覆 粘土	粘質土をブロック状に含む)
20	10R5/6 黄褐色 粘土	粘質土 (砂を少し含む)
21	10R5/4 にぶい黄褐色 粘土	粘質土 (砂を少し含む)
22	10R6/3 にぶい黄褐色 粘土	粘土をブロック状に少し含む)
23	10R6/8 明黄色 粘土	粘土
24	10R6/1 挿伐 粘土	粘質土
25	10R6/2 反覆層 粘土	粘質土
26	2.516/5 反覆 粘土	粘質土
27	10R5/2 反覆層 粘土	粘質土 (溝3 埋土)
28	10R7/2 反覆層 粘土	粘土
29	10R6/8 明黄色 粘土	粘土をブロック状に少し含む)
30	10R7/8 黄褐色 粘土	粘土] 溝3 流出粘土

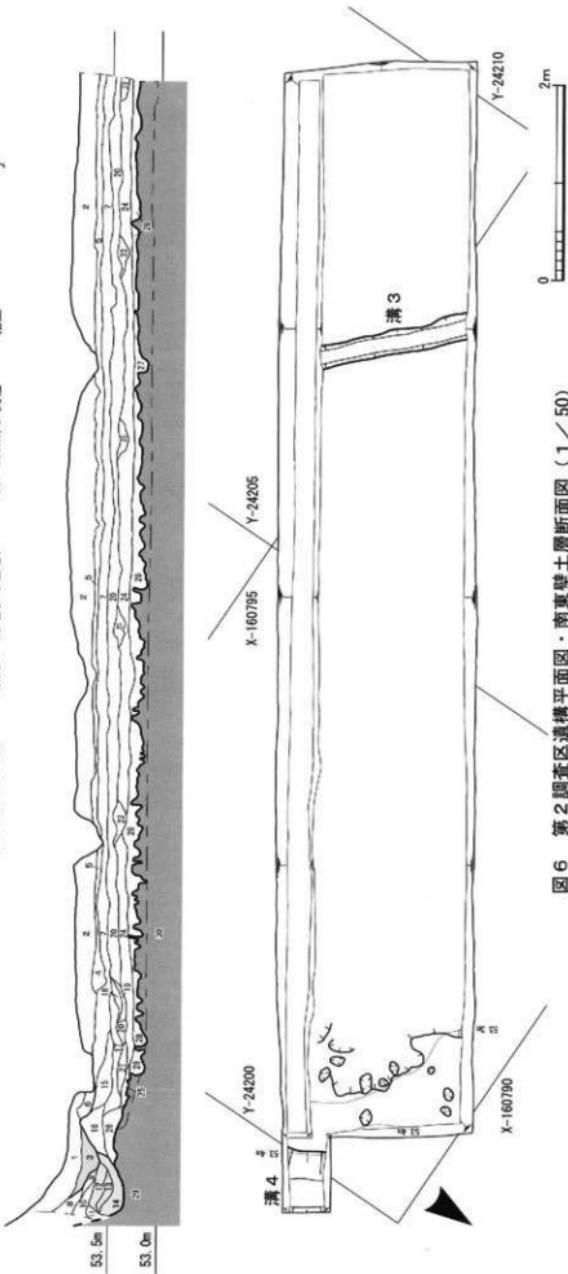


図6 第2調査区邊縁平面図・南東壁土層断面図（1／50）

物を包含する。これらの下層で黄橙色粘土、灰黄色粘土・明黄褐色砂質土の地山面に達する。地山面は、ほぼ平坦で標高約52.4mを測る。調査区南端から北に4.6m付近から緩やかに傾斜し、拡張区では標高52.9m弱を測る。この地山傾斜面で長辺20cm以下の石を少量検出した。葺石などに使われた石材と思われるが、地山面から浮いているもの、下に遺物を挟むものなど、元の位置にあるものはほとんどないと考える。

溝5

北東拡張部で検出した東西方向の溝である。溝2、溝4と同じ性格のものと考えられ、現状の墳丘裾を巡る様に掘られる。周濠底の堆積層を除去し、耕作地の造成が行われた後に開削される。

4. 出土遺物

1~23は第1調査区から出土した(図8)。1~19は埴輪である。すべて小さな破片で全体を復元できるものはない。また、内外面ともに残りが悪く、調整が分かるものはほとんどない。1~15は円筒埴輪。突帯は断面台形を呈する。1~3には円形の透かし孔がみとめられる。5・15は外面に縱方向のハケメが、9は突帯の下に横方向のハケメが僅かに残る。16・17は朝顔形埴輪

1	10YR4/3	にぶい黄褐	表土・耕土	9	7.5YR6/1	褐灰	粘土
2	7.SYR3/2	黒褐	耕土	10	2.5Y7/1	灰白	粘土
3	2.SY6/2	灰黄	砂質土	11	10YR6/1	褐灰	粘土
4	2.SY6/2	灰黄	シルト (溝5埋土)	12	10YR7/8	黄橙	粘土
5	10YR7/2	にぶい黄褐	シルト	13	2.5Y7/2	灰黄	粘土・
6	10YR6/2	灰黄褐	粘土	14	10YR6/6	明黄褐	粘土
7	10YR6/3	にぶい黄褐	粘土		10YR6/6	明黄褐	砂質土・
8	10YR6/1	褐灰	粘土		2.5Y7/2	灰黄	粘土

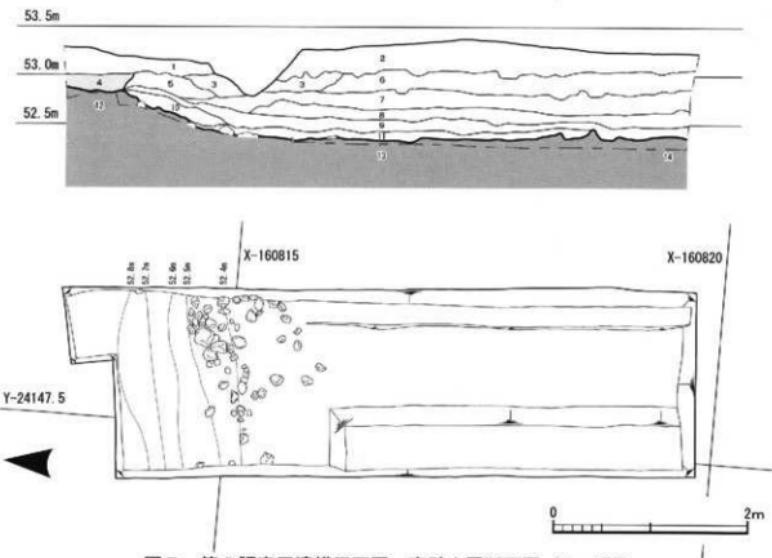


図7 第3調査区遺構平面図・東壁土層断面図 (1/50)

と思われる。18・19は形象埴輪か。19は蟠状のものが円筒形の本体から斜め下方に伸びる。20～22は瓦器である。20は皿で、復元した口径は7.2cm。21・22は椀である。高台は低く、断面三角形を呈する。23は土師器釜。すべて埴輪片と混在して出土した。

24～43は第2調査区から出土した（図9）。24～30は円筒埴輪。いずれも小片で全体を復元できるものはない。突帯は断面台形。30は須恵質。隣接する三吉石塚古墳の埴輪が混入したものと考えられる。32・33は形象埴輪か。32は円筒埴輪片より小さい円形透かし孔がある。34は土師器釜、35は須恵器鉢、36・37は瓦器皿、38～41は瓦器椀、42・43は瓦質土器である。いずれも埴輪片と混在して出土した。

44～57は第3調査区から出土した（図10）。44～50は円筒埴輪片。突帯断面は台形。45は外面にタテハケ、内面にナナメハケを施す。51～56は形象埴輪片。54は外面が傾斜し、沈線を2本施す。55は板状で、外面に突帯、下辺に半円形の透かし孔がある。57は須恵器鉢。

今回出土した円筒埴輪には黒斑があり、透かし孔は円形のみであったことから5世紀前半に位置づけられる²⁶。

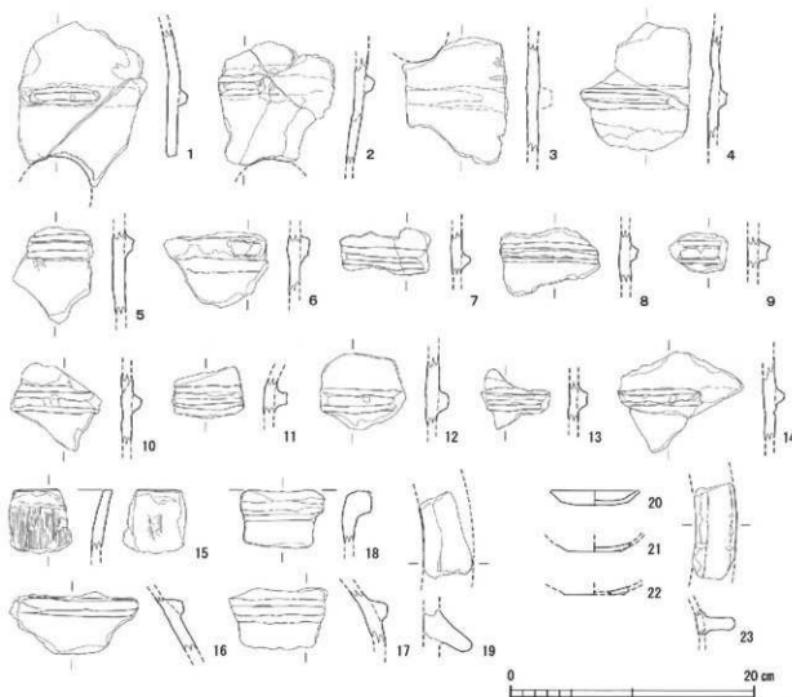


図8 第1調査区出土遺物実測図（1／4）

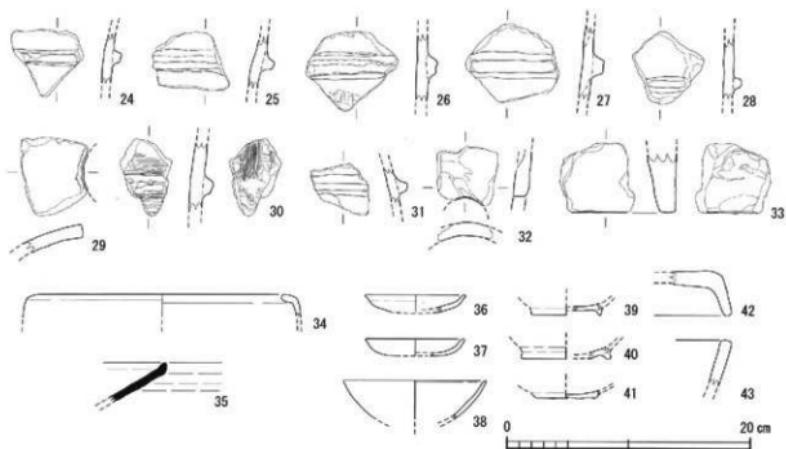


図9 第2調査区出土遺物実測図（1／4）

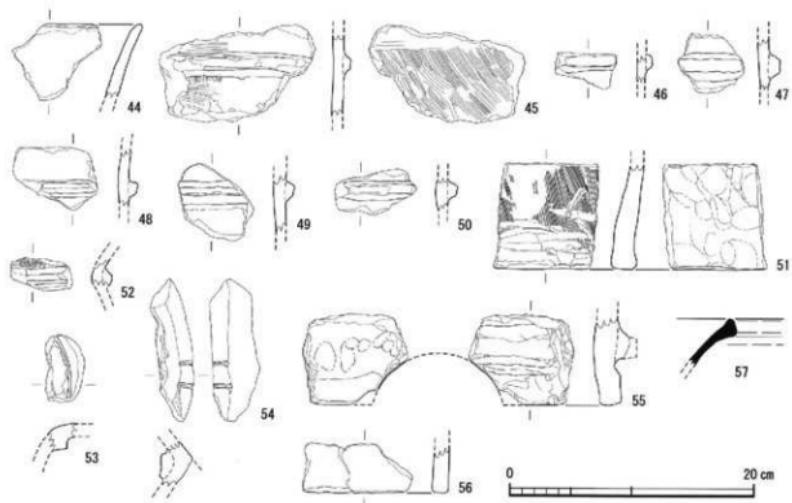
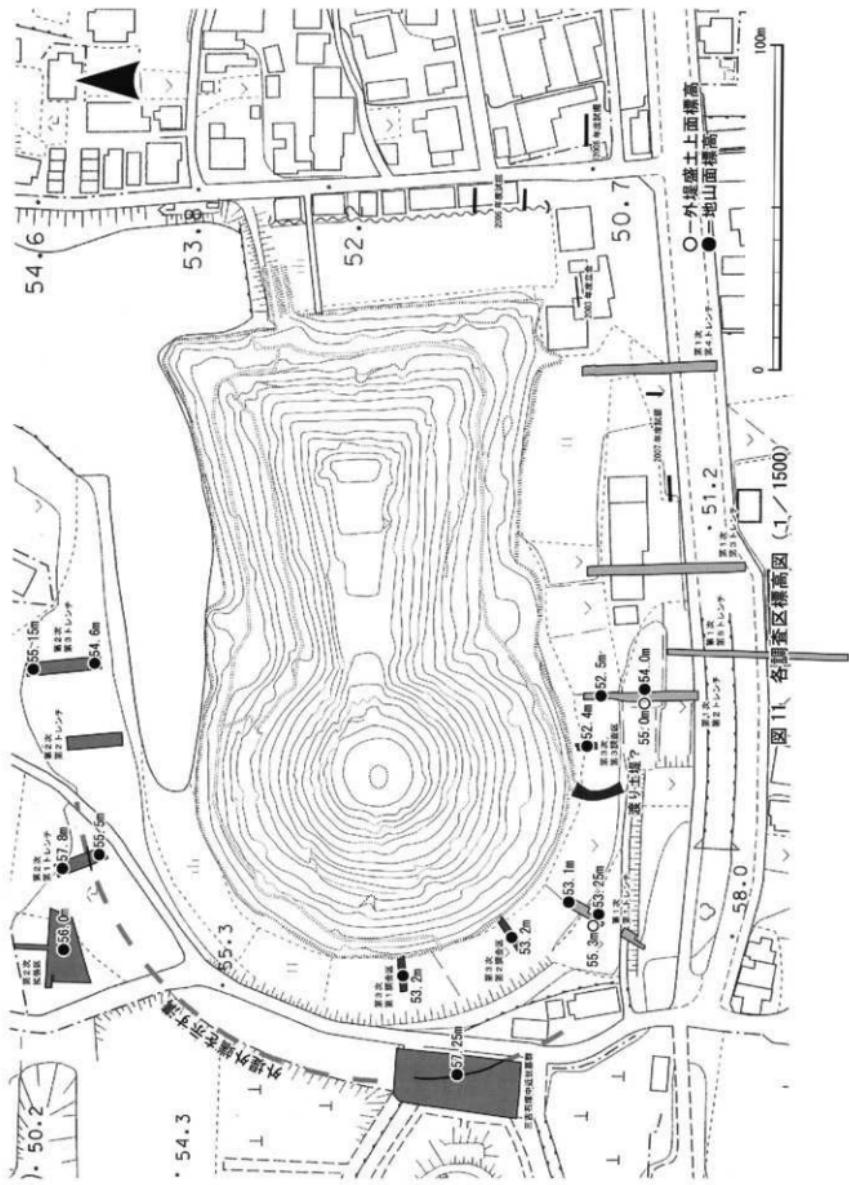


図10 第3調査区出土遺物実測図（1／4）



5.まとめ(図11)

今回の調査では墳丘の範囲確認を目的とした。各調査区の地山面は墳丘側で僅かに傾斜しているが、墳丘裾の可能性があるが、墳丘裾を示す様な葺石・基底石等は検出しなかったため明確ではない。第3調査区で少量検出した石材も地山面から浮いているもの、下に遺物を挟むものなど、元の位置にあるものはほとんどないと考える。

墳丘の周囲は、中世の農耕地開発時に周濠内の堆積土層を除去して上を入れ替え、同時に墳丘裾を少し削り込んで排水溝を開削したと考えられる。この時、葺石の石材や埴輪など農業にとつて邪魔なものはほとんど撤去したと思われる。その後は、墳丘の崩落などによる排水溝の埋没、耕作地(周濠部分)の地上げ、排水溝の再掘削を繰り返し行っている。

第3次調査で検出した周濠底の地山面の標高は第1次調査の結果とほぼ一致し、後円部西側～南西側で標高53.1～53.2m(第1次調査第1トレンチ、第3次調査第1・2調査区)、後円部南側で標高52.4～52.5m(第1次調査第2トレンチ、第3次調査第3調査区)を測る。第1次調査第1トレンチで検出した周濠底部の地山面が標高約53.1m、外堤基底部の地山面が周濠側端部で約53.25mを測り、その比高差は約15cmとなる。古墳築造時、周濠底が地山削り出しにより成形され、周濠底の高さが外堤基底部と同じかより低く成形されたとすると、中世の農耕地開発に伴う周濠底の掘り下げは最大15cm程と仮定できる。この仮定を援用して墳丘南北の農地開発による周濠底の掘り下げが同程度の軽微なものだったとすれば、後円部西側～南西側と後円部南側で70cm前後の比高差が生じる。現在、後円部南側には墳丘内部へ続く里道となっている渡り土堤状の高まりがあり、周濠はこの渡り土堤によって区切られる階段状だったと思われる。

註1 菅野耕三 2001「広陵町の地質」『広陵町史』広陵町・広陵町史編集委員会

註2 以下、各古墳の時期などについては次の文献を参考にした。

白石太一郎 1974「馬見古墳群について」『馬見丘陵における古墳の調査』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第29号 奈良県立橿原考古学研究所

東潮・坂靖 1989「北葛城郡佐味田・別所下古墳発掘調査報告」『奈良県遺跡調査概報1986年度』奈良県立橿原考古学研究所

井上義光 2001「7. 萩城北部地域」『大和前方後円墳集成』樋原考古学研究所研究成果第4冊 奈良県立橿原考古学研究所

坂靖 2002「馬見古墳群の円筒埴輪」『馬見古墳群の基礎資料』樋原考古学研究所研究成果第5冊 奈良県立橿原考古学研究所

坂靖 2009「第1章 円筒埴輪の成立と展開」『古墳時代の遺跡学・ヤマト王権の支配構造と埴輪文化』雄山閣

註3 泉森政 1982「広陵町新山古墳群」『奈良県遺跡調査概報1980年度』奈良県立橿原考古学研究所

註4 前澤郁浩 2001「土山古墳」『大和前方後円墳集成』樋原考古学研究所研究成果第4冊 奈良県立橿原考古学研究所

註5 前澤郁浩 2001「孤井稻荷山古墳」『大和前方後円墳集成』樋原考古学研究所研究成果第4冊 奈良県立橿原考古学研究所

- 註6 前澤郁浩 1997『インキ山古墳第1次発掘調査報告』大和高田市文化財調査報告第6集 大和高田市教育委員会
- 註7 川森綾 1984「考古学的に見た大和高田市地方」『改訂 大和高田市史』大和高田市役所
- 註8 前澤郁浩 2003『かん山谷古墳 第1次発掘調査概要報告書』大和高田市教育委員会埋蔵文化財発掘調査概要報告 大和高田市教育委員会
- 註9 上橋理子 2003「佐味田孤塚古墳の調査」『三吉2号墳・ダダオシ古墳 付三吉3号墳・佐味田孤塚古墳』奈良県文化財調査報告書第97集 奈良県立橿原考古学研究所
- 清水康一 2003「佐味田孤塚古墳」『奈良県遺跡調査概報2002年』奈良県立橿原考古学研究所
- 註10 河上邦彦・卜部行弘・松本百合子 1986「佐味田宝塚古墳範囲確認調査報告」『奈良県遺跡調査概報1985年度』奈良県立橿原考古学研究所
- 河上邦彦 2001「只吹山古墳」『大和前方後円墳集成』橿原考古学研究所研究成果第4冊 奈良県立橿原考古学研究所
- 註11 井上義光 2005『巣山古墳調査概報』学生社
- 註12 小栗明彦 2007「一本松古墳・一本松2号墳・寺戸遺跡2006、巣山古墳前方部外堤、巣山古墳前方部外堤北2005・2006」『奈良県遺跡調査概報2006年』奈良県立橿原考古学研究所
- 註13 古村公男 2001「倉塚古墳」『大和前方後円墳集成』橿原考古学研究所研究成果第4冊 奈良県立橿原考古学研究所
- 註14 東潮・坂靖 1989「北葛城郡佐味田・別所下古墳発掘調査報告」『奈良県遺跡調査概報1986年度』奈良県立橿原考古学研究所
- 河上邦彦 2002「北端（石塚）古墳」『馬見古墳群の基礎資料』橿原考古学研究所研究成果第5冊 奈良県立橿原考古学研究所
- 註15 東潮・坂靖 1990「河合町佐味田・カタビ古墳群発掘調査報告書」『奈良県遺跡調査概報1987年度』奈良県立橿原考古学研究所
- 註16 佐々木好直・坂靖 1990「河合町佐味田別所下2号墳及びナガレ山古墳周辺の調査」『奈良県遺跡調査概報1989年度』奈良県立橿原考古学研究所
- 註17 前掲註16佐々木・坂文獻
- 註18 蔣岐神社1号墳は円墳または前方後円墳で、径約45mとされる。これは「2次発掘調査報告」のまとめに「検出した周塁を含めた円丘部の規模は直径約45mに復元される」とある記述に起因すると思われる。同報告の「第4回 邊構平面図」には等高線とは別に墳丘幅を示したと思われる弧線が描かれており、これを元に復元すると円丘部の直径は28~32mとなる。
- 伊藤雅和 2000「北葛城郡広陵町蔣岐神社古墳2次発掘調査報告」『奈良県遺跡調査概報1999年度』奈良県立橿原考古学研究所
- 註19 井上義光 1995「広陵町シドマ塚古墳範囲確認調査報告」『奈良県遺跡調査概報1994年度』奈良県立橿原考古学研究所
- 註20 前掲註15東・坂文獻
- 註21 小池香津江 2003「三吉3号墳の調査」『三吉2号墳・ダダオシ古墳 付三吉3号墳・佐味田孤塚古墳』奈良県文化財調査報告書第97集 奈良県立橿原考古学研究所
- 註22 小池香津江 2003「ダダオシ古墳の調査」『三吉2号墳・ダダオシ古墳 付三吉3号墳・佐味田孤塚古墳』

- 奈良県文化財調査報告書第97集 奈良県立橿原考古学研究所
- 註23 井上義光 1988『石塚古墳範囲確認調査概報』広陵町埋蔵文化財調査報告1 広陵町教育委員会
- 泉森皎 2001『歴史編 第一章 考古学からみた広陵 第四節 古墳時代 一 中期古墳 三吉石塚古墳』『広陵町史』広陵町・広陵町史編集委員会
- 註24 泉森皎 2001『歴史編 第一章 考古学からみた広陵 第四節 古墳時代 二 中期古墳 文代山古墳』『広陵町史』広陵町・広陵町史編集委員会
- 註25 前掲註16佐々木・坂文献
- 註26 白石太一郎・前園実知雄 1974『馬見丘陵における古墳の調査』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第29冊 奈良県立橿原考古学研究所
- 註27 木下亘 1988『史跡乙女山古墳 付高山2号墳一範囲確認調査報告』河合町文化財調査報告第2集 河合町教育委員会
- 吉村公男 1991『高山2号墳II 中良塚古墳・小集落地帯改良事業に伴う発掘調査報告一』河合町文化財調査報告第9集 河合町教育委員会
- 註28 吉村公男 1992『高山3号墳発掘調査報告』河合町文化財調査報告第5集 河合町教育委員会
- 註29 前掲註28吉村文献
- 註30 井上義光 1988『新木山古墳範囲確認調査概報』広陵町埋蔵文化財調査概報1 広陵町教育委員会
- 註31 山上豊 2001『歴史編 第八章 明治期の広陵 第三節 地方制度の再編と村々の動き 三 あいつぐ古墳の発見』『広陵町史』広陵町・広陵町史編集委員会
- 註32 河上邦彦 2002『新木山古墳』『馬見古墳群の基礎資料』橿原考古学研究所研究成果第5冊 奈良県立橿原考古学研究所
- 註33 秋山日出雄編 1985『大和国古墳墓取調書』(財)由良大和古代文化研究会
- 註34 前掲註30井上文献
- 註35 井上義光 2010『新木山古墳範囲第2次範囲確認調査概報一ノゾ古墳群発掘調査概報一』広陵町埋蔵文化財調査概報8 広陵町教育委員会
- 註36 川西宏幸 1978「円筒埴輪總論」『考古学雑誌』第64巻第2号 日本考古学会

因 器 番 号	器 種	地区名	遺構・土質名	法量(cm) (僅用器)	色調	備 考	
1	円筒埴輪	1tr	周濠底		外面：灰白 内面：淡黄橙 断面：灰白	10YR8/2 7.5YR8/3 10YR8/1.5	
2	円筒埴輪	1tr	周濠底		外面：灰白、明褐 内面：灰白、明黄褐 断面：灰白	10YR8/2, 7.5YR8/6 10YR8/2, 10YR7/6 7.5YR8/1.5	
3	円筒埴輪	1tr	褐色灰色粘土(包含層)		外面：棕、灰白 内面：明褐灰 断面：明黄褐	7.5YR7/6, 7.5YR8/1 7.5YR7/5/1 10YR7/6	
4	円筒埴輪	1tr	褐色灰色粘土(包含層)		外面：灰白、一部浅黄橙 内面：灰白、一部黄橙 断面：褐灰	7.5YR8/1, 7.5YR8/8 2.5YR8/1, 2.5YR8/8 10YR5/1	
5	円筒埴輪	1tr	黄褐色土・褐色土		外面：灰白 内面：明黄褐 断面：墨褐	10YR8/1 10YR7/8 2.5Y3/1	
6	円筒埴輪	1tr	黄褐色土・褐色土		外面：灰白 内面：灰白、棕 断面：褐灰、黄褐	2.5Y8/1 10YR8/1, 5YR8/8 10YR5/1, 2.5Y5/4	
7	円筒埴輪	1tr	黄褐色土・褐色土		外面：灰白 内面：灰白、にぶい棕 断面：褐灰	7.5YR8/1 7.5YR8/1.5, 7.5YR7/4 7.5YR8/5/1	
8	円筒埴輪	1tr	黄褐色土・褐色土		外面：オリーブ褐、一部黄橙 内面：灰白、一部明黄褐 断面：暗灰黄	2.5Y4/4, 10YR8/6 2.5Y8/1, 10YR7/6 2.5Y4.5/2	
9	円筒埴輪	1tr	褐色土(側溝)		外面：淡黄橙 内面：淡黄橙 断面：淡黄橙	10YR8/4 10YR8/3 7.5YR8/6	
10	円筒埴輪	1tr	褐色灰色粘土(包含層)		外面：灰白 内面：灰白 断面：灰白	7.5YR8/1	
11	円筒埴輪	1tr	褐色粘土(包含層)		外面：棕 内面：棕 断面：淡黄橙	5YR7/6 5YR8.5/8 7.5YR8/4	
12	円筒埴輪	1tr	褐色灰色粘土(包含層)		外面：黄褐、棕 内面：灰白、黄橙 断面：褐灰	10YR8/6, 7.5YR8/7 7.5YR8/1, 10YR8/6 10YR5/1	
13	円筒埴輪	1tr	褐色粘土(包含層)		外面：淡黄橙、黄褐 内面：灰白、一部明黄褐 断面：黄褐、黄灰	10YR8/4, 10YR8/6 10YR8/1, 10YR8/6 2.5Y3/3, 2.5Y4.5/1	
14	円筒埴輪	1tr	褐色灰色粘土(包含層)		外面：灰白 内面：棕 断面：灰白	7.5YR8/1 7.5YR7/6 10YR8/1	
15	円筒埴輪	1tr	褐色灰色粘土(包含層)		外面：淡黄橙 内面：淡黄橙 断面：淡黄橙	10YR8/4 10YR8/4 7.5YR7.5/4	
16	朝顔形埴輪	1tr	褐色灰色粘土(包含層)		外面：灰白、淡黄橙 内面：灰白、一部明黄褐 断面：灰白	7.5YR8/2, 7.5YR8/4 10YR8/1, 10YR8/6 10YR7/1	
17	朝顔形埴輪	1tr	周濠底		外面：淡黄橙、にぶい棕 内面：黄褐 断面：灰白	7.5YR8/3, 7.5YR7/4 10YR8/6 10YR8/1	
18	形象埴輪	1tr	褐色灰色粘土(包含層)		外面：にぶい棕 内面：灰白 断面：褐灰	5YR7/4 10YR8/1 10YR5.5/1	
19	形象埴輪	1tr	黄褐色土・褐色土		外面：灰白、棕 内面：灰白、墨褐 断面：黑褐	10YR8/1, 7.5YR8/6 10YR7/1, 10YR3/1 2.5Y3/1	
20	瓦器皿	1tr	褐色土(側溝)	口径(7.4) 高(1.3)	外面：褐灰 内面：灰 断面：灰白	N3/ 10Y3.5/1 N8/	反転復元 口縁部1/15残存
21	瓦器皿	1tr	褐色土(側溝)	底径(4.3) 残存高: 0.8	外面：黑 内面：暗灰 断面：灰白	7.5Y2.5/1 2.5Y8/1	反転復元 裏台1/8残存
22	瓦器皿	1tr	褐色灰色粘土(包含層)	底径(4.9) 残存高: 0.7	外面：黑 内面：オリーブ黒 断面：灰白	7.5Y2.5/1 7.5Y3/1 N8/	反転復元 裏台1/8残存

調査番号	種類	地区名	遺構・土層名	法量(cm) (復元値)	色調	備考
23	土師器壺	1tr	褐灰色粘土(包含層)		外面:灰白 内面:灰白 断面:褐灰	10YR8/1 2.5YB/2 10YR6/1
24	円筒埴輪	2tr	灰褐色土(包含層)		外面:灰白 内面:黄橙 断面:黑褐	10YR8/1 10YR7/8 2.5Y3/1
25	円筒埴輪	2tr	灰褐色粘土(包含層)		外面:灰白 内面:棕 断面:明黃褐	7.5YR8/1 ~ 8/2 7.5YR6/7 10YR7/6
26	円筒埴輪	2tr	灰褐色粘土(包含層)		外面:浅黃橙、一部灰 内面:棕 断面:黄灰	7.5YR8/6、5Y3.5/1 7.5YR7/6 2.5Y5/1
27	円筒埴輪	2tr	墳丘側拵部		外面:灰白 内面:灰白 断面:黄灰	10YR8/1 7.5YR8/1 2.5Y4/1
28	円筒埴輪	2tr	墳丘側拵部		外面:灰白 内面:棕 断面:褐灰	10YR8/1 7.5YR8/8 10YR8/1
29	円筒埴輪	2tr	墳丘側拵部		外面:灰白 内面:灰白 断面:棕	7.5YR8/1 7.5YR8/1 7.5YR4/3
30	円筒埴輪	2tr	灰褐色粘土(包含層)		外面:灰、一部褐灰 内面:灰 断面:灰	N4 / 、 5YR5/1 N4.5/ N4
31	円筒埴輪	2tr	灰褐色粘土(包含層)		外面:灰白 内面:浅黃橙 断面:棕	7.5YR8/1 10YR8/3 7.5YR4/4
32	形象埴輪	2tr	灰褐色粘土(包含層)		外面:灰白 内面:灰黄 断面:黄灰	7.5YR8/1 2.5Y7/2 2.5Y5/1
33	形象埴輪	2tr	墳丘側拵部		外面:灰白 内面:灰白 断面:黄灰	10YR8/2 10YR8/1 2.5Y4/1
34	土師器釜	2tr	灰褐色粘土(包含層)	口径:(20.0) 残存高: 2.0	外面:浅黃橙 内面:淡黃 断面:灰白	10YR8/3 2.5Y8/4 2.5Y8/1
35	須恵器鉢	2tr	灰褐色土(包含層)		外面:明青灰、青灰 内面:明青灰 断面:明青灰	5PB7/1、5PB6/1 5PB7/1 5PB7/1
36	瓦器皿	2tr	灰褐色粘土(包含層)	口径:(8.0) 残高:(15)	外面:黑 内面:黑褐 断面:灰白	N2.5/ 2.5Y4.5/1 N8 /
37	瓦器皿	2tr	灰褐色粘土(包含層)	口径:(8.2) 残高:(14)	外面:灰 内面:オリーブ黒 断面:灰白	N4/ 7.5Y3/1 2.5Y8/1
38	瓦器碗	2tr	溝3埋土	口径:(11.6) 残存高: 4.2	外面:オリーブ黒 内面:灰 断面:灰白	10Y3/1 N3.5/ N8 /
39	瓦器碗	2tr	灰褐色粘土(包含層)	高径:(5.6) 残存高: 0.9	外面:灰 N / 内面:暗灰 断面:灰白	N / N3 / 2.5Y8/2
40	瓦器碗	2tr	灰褐色土(包含層)	底径:(7.0) 残存高: 1.0	外面:暗灰 内面:灰白 断面:灰白	N3 / 2.5Y8/1 5Y8/1
41	瓦器碗	2tr	灰褐色粘土(包含層)	底径:(4.6) 残存高: 0.8	外面:淡黄 内面:灰白 断面:灰白	5Y7/3 5Y7/2 ~ 8/1 N8 /
42	瓦質土器 火消し塗蓋	2tr	墳丘側拵部	器高: 3.6	外面:灰白 内面:灰白 断面:にぶい性	10YR9/1 N6.5 / 、 10YR9/1 7.5YR6.5/4
43	瓦質土器鉢	2tr	灰褐色粘土(包含層)	残存高: 3.7	外面:灰、灰白 内面:灰、灰白 断面:灰白	N5 / 、 N8 / N4 / 、 2.5YB/1 2.5Y8/1
44	円筒埴輪	3tr	灰褐色粘土(包含層)		外面:浅黄 内面:灰白 断面:灰黄褐	2.5Y7.5/3 2.5Y8/2 10YR4/2

図 番号	器 種	地区名	遺構・土層名	法量 (cm) (復元値)	色調	備 考
45	円筒埴輪	3tr	周濠底		外面：灰白、一部黒褐 内面：淡黄 断面：暗灰	2.5YB/1、2.5Y3.5/1 2.5YB/5 N3.5/
46	円筒埴輪	3tr	灰褐色土		外面：灰白 内面：反白 断面：黑	10YR8/2 10YR8/1 10YR1.7/1
47	円筒埴輪	3tr	灰褐色粘土（包含層）		外面：淡黄 内面：淡黄 断面：黄褐	2.5Y7.5/3 2.5Y8/3 2.5Y5/4
48	円筒埴輪	3tr	灰褐色粘土（包含層）		外面：黄褐、灰白 内面：反白、明黄褐 断面：黑褐	10YR6/6、7.5YR8/1 10YR8/1、10YR6/6 2.5Y3/1.5
49	円筒埴輪	3tr	灰褐色粘土（包含層）		外面：反白、淡黄褐 内面：反白、裡 断面：浅黄棕	7.5YR8/1、7.5YR8/6 7.5YR8/1、7.5YR8/6 10YR8/6
50	円筒埴輪	3tr	灰褐色粘土（包含層）		外面：反白、明黄褐 内面：灰白 断面：褐灰	7.5YR8/1、10YR5.5/6 7.5YR8/1 10YR3.5/1
51	円筒埴輪	3tr	灰褐色粘土（包含層）		外面：浅黄褐 内面：淡黄 断面：灰白、灰	7.5YR8/3 2.5Y8/3 N7.、N6/
52	瓶底形埴輪？	3tr	灰褐色粘土（包含層）		外面：灰白、淡黄 内面：浅黄棕 断面：灰	2.5Y8/1、2.5Y8/4 7.5YR8/5 N4/
53	形象埴輪	3tr	灰褐色粘土（包含層）		外面：灰白 内面：浅黄褐 断面：黄灰	7.5YR8/1.5 7.5YR8/3 2.5Y3.5/1
54	形象埴輪	3tr	灰褐色土		外面：灰白 内面：灰白 断面：灰	7.5YR8/1 ~ 8/2 7.5YR8/2 5Y4/1
55	形象埴輪	3tr	灰褐色粘土（包含層）		外面：灰白 内面：灰白 断面：黑褐色	7.5YR8/1 10YR8/1 ~ 8/1 2.5Y3/
56	形象埴輪？	3tr	灰褐色粘土（包含層）		外面：灰白 内面：灰白 断面：褐灰	7.5YR8/1 2.5YR8/1 10YR3.5
57	須恵器鉢	3tr	灰褐色粘土（包含層）		外面：青灰、暗灰 内面：青灰 断面：灰	5PB6.5/1、N3.5/ 5PB6.5/1 N6/

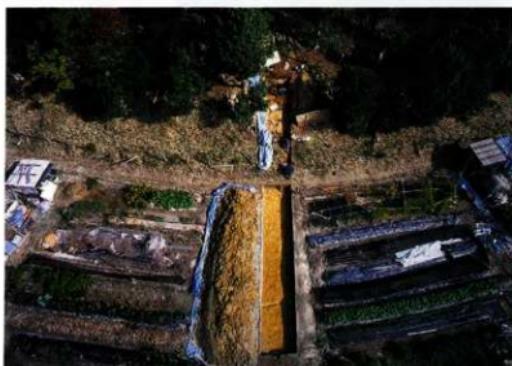
図版 1



図版2



第1調査区全景
(西から 奥は宮内庁第11トレンチ)



第2調査区全景
(南西から 奥は宮内庁第10トレンチ)



第3調査区全景
(南から 奥は宮内庁第9トレンチ)

図版 3



第1調査区全景
(上が北 右は宮内庁第11トレンチ)



第2調査区全景
(上が北西 右は宮内庁第10トレンチ)



第3調査区全景
(右が北 右は宮内庁第9トレンチ)

図版 4



第1調査区全景（西から）



第1調査区全景（東から）



第1調査区全景（北東から）

図版 5



第1調査区遺物検出状況（北から）



第1調査区南東拡張部
(北から 左は宮内庁第11トレンチ)



第1調査区南東拡張部（北から）

図版 6



第2調査区全景（南西から）



第2調査区全景（北東から）

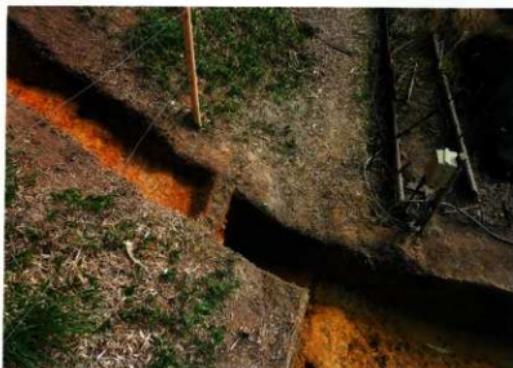


第2調査区全景（西から）

図版 7



第2調査区東拡張部
(西から 上は宮内庁第10トレンチ)



第2調査区東拡張部
(北西から 左は宮内庁第10トレンチ)



第2調査区東拡張部
(北西から 左は宮内庁第10トレンチ)

図版 8



第3調査区全景（南から）



第3調査区全景（北から）



第3調査区全景（南西から）



第3調査区石材検出状況（西から）

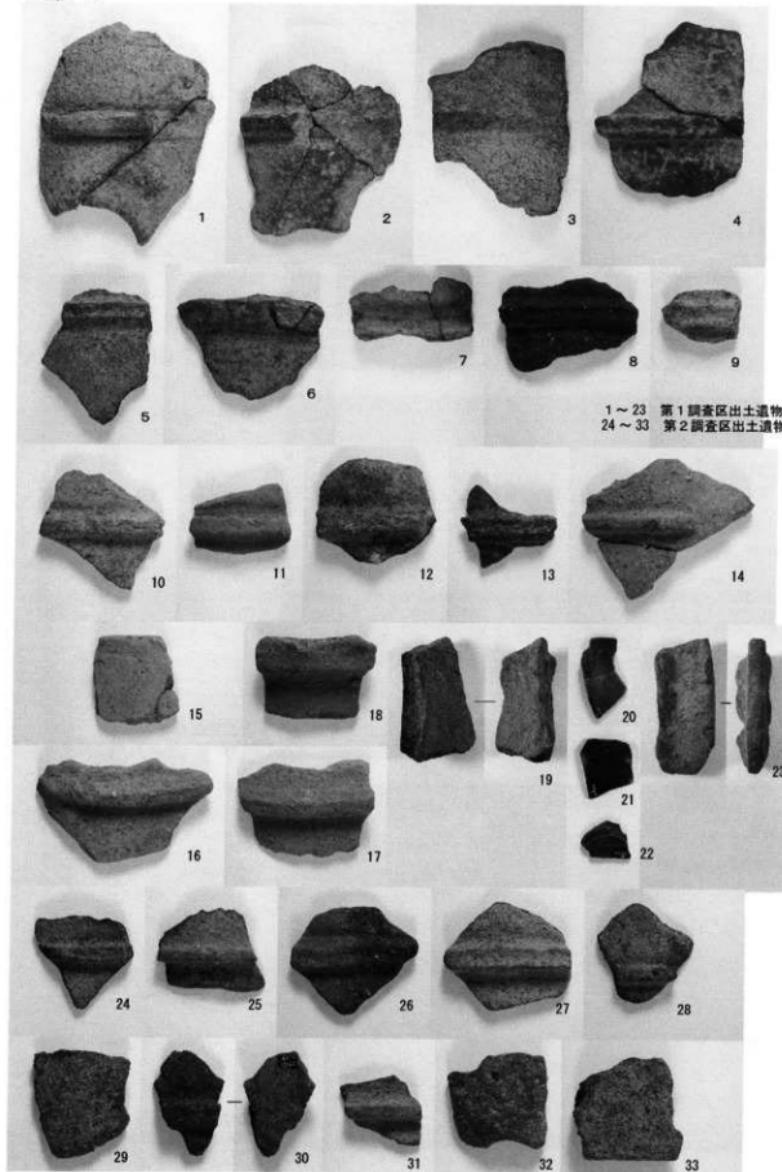


第3調査区北東拡張部
(南西から 上は宮内庁第9トレンチ)

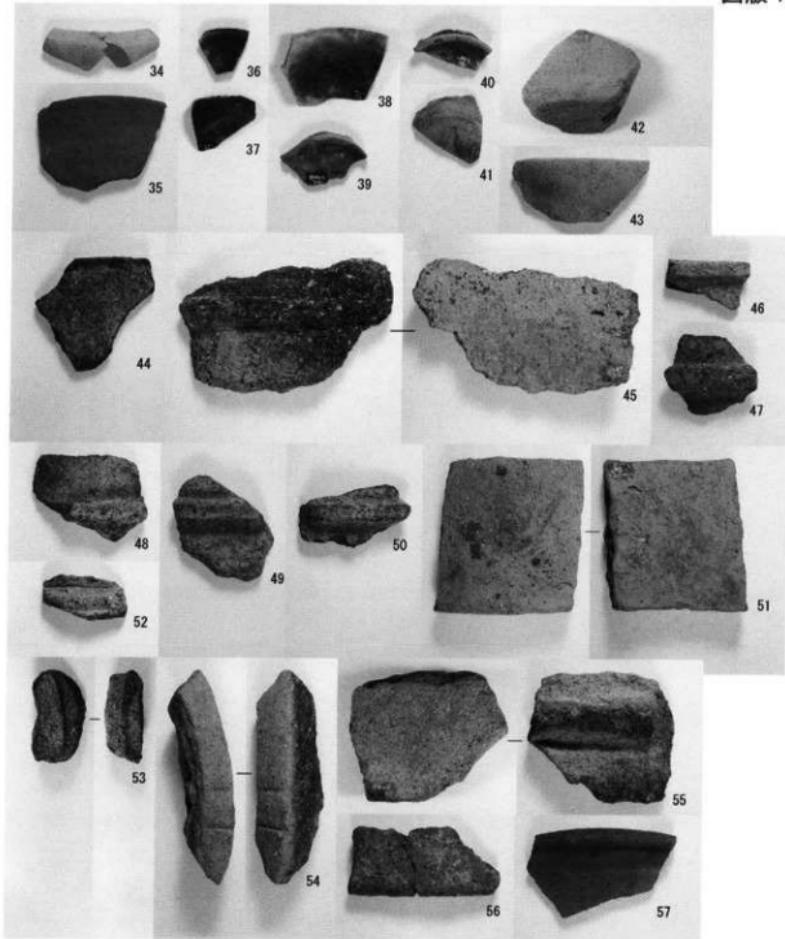


第3調査区北東拡張部
(西から 左は宮内庁第9トレンチ)

図版 10



図版 11



34 ~ 43 第2調査区出土遺物、44 ~ 57 第3調査区出土遺物

報告書抄録

ふりがな	にきやまこふん							
書名	新木山古墳							
副書名	第3次範囲確認調査報告							
巻次								
シリーズ名	広陵町文化財調査報告							
シリーズ番号	第3集							
編著者名	名倉聰							
編集機関	広陵町教育委員会事務局							
所在地	〒 635-8515 奈良県北葛城郡広陵町大字南郷 583 番地 1 TEL. 0745-55-1001							
発行年月日	平成 24 (2012) 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東經	調査期間	調査面積	調査原因	
にきやまこふん 新木山古墳	ならけん 奈良県 きたかつらぎぐん 北葛城郡 こうりょうらとう 広陵町 おおあざみつこし 大字三古	29426	10D-76	34° 33' 12"	135° 44' 12"	2010.10.20 ~ 2010.11.19	55.2 m ²	範囲確認 調査
所 収 遺 跡 名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
新木山古墳	古墳 生痕跡	古墳時代 中世	周濠 素掘り溝	埴輪 土師器、須恵器、 瓦器、瓦質土器、 陶磁器	調査後埋め戻し			

奈良県北葛城郡広陵町
新木山古墳第3次範囲確認調査報告
広陵町文化財調査報告 第3集

平成24(2012)年3月31日

発行 広陵町教育委員会
奈良県北葛城郡広陵町大字南郷583番地1

印刷 株式会社 明新社
奈良市南京終町3丁目464番地